

さまざまな分野で“がんばる”長崎市民をご紹介!!

ながさきメーカー

# 長崎maker

今月のmaker

長崎みなとメディカルセンター  
市民病院 院内ボランティア

病院でちょっと困ったときに、声をかけ、手助けしてくれるボランティアのみなさん。日々、多くの患者さんと接する上で、安心感を与えられることをモットーに活動しています♪



ボランティアスタッフは総勢9人。スタッフになったきっかけは、「患者としてお世話になった」「家族がお世話になった」「ボランティアをしたいと思った」とさまざまです。



活動は、院内の案内や車いす介助の他に、折り紙教室を開いたり、入院で使うポシェットや帽子などの縫製をしたりなど、患者さんの要望に応えながらいろいろなサポートを行っています。



クリスマスに向けては、入院中の患者さん全員のために手作りプレゼントを製作中とのこと。思わず「全員ですか!？」と再確認してしまいましたが、この問いにもニッコリ笑顔で「ハイ」と答えるところはさすがと言うほかありませんでした。



かわいいポケットティッシュ入れを準備中です♪

「ボランティアを続けられる秘訣はなんですか?」との問いに、「ありがたい感謝の気持ちがうれしい」「できることを頑張りすぎず楽しくやっています」「みなさんのおしゃべりが楽しみ」とこれもまた笑顔で答えていただきました。

そんなスタッフの皆さんは一緒にボランティア活動をしていただける仲間を募集しています! 詳しくは、今月号の34・35ページをご覧ください♪

働き盛りの長崎人をクローズアップ!!

## はたらきびと 輝く働き人

長崎船舶装備株式会社  
宮脇 大輔 さん

創立は1943年。船舶居住区内装のデザイン・設計から現場施工まで手掛け、日本トップクラスのシェアを誇る。その技術を生かして、商業施設の内装など、陸上でもさまざまな事業を展開している。



Q1. この企業に就職した理由は?



一見ホテルと変わりませんが、船内の家具は全て固定されます(※写真はイメージ)

生まれも育ちも長崎です。ずっと身近に感じていた「海」と関わりのある仕事に就きたいと思っていて、高校を卒業後、「船」の内装をつくるこの会社に就職を決めました。

Q2. どんなお仕事を担当されてますか?



体力と、集中力を必要とする作業が続きます

生産部長崎工場に所属していて、船舶用の家具の製作を行っています。職場には加工グループと組立グループがあり、自分は組立グループのリーダーを任されています。

工場では毎日50組ほどの家具を、皆で力を合わせて作っています。自分たちが作った製品が、世界中を行き来する船で多くのかたに使ってもらえることが、やりがいになっています。

Q3. 職場の雰囲気はhowですか?

職場には10代から60代まで幅広い年代の社員がいますが、皆家族のように接しています。

チームワークが崩れると、製品ができあがりません。信頼されるリーダーであり続けるよう、日々努力しています。



常にコミュニケーションを心がけています